

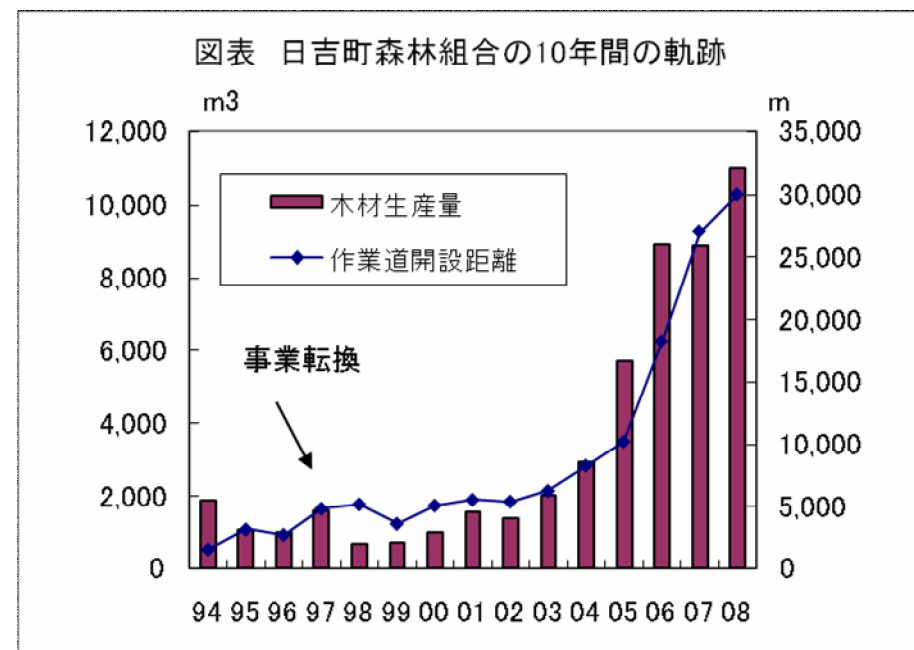
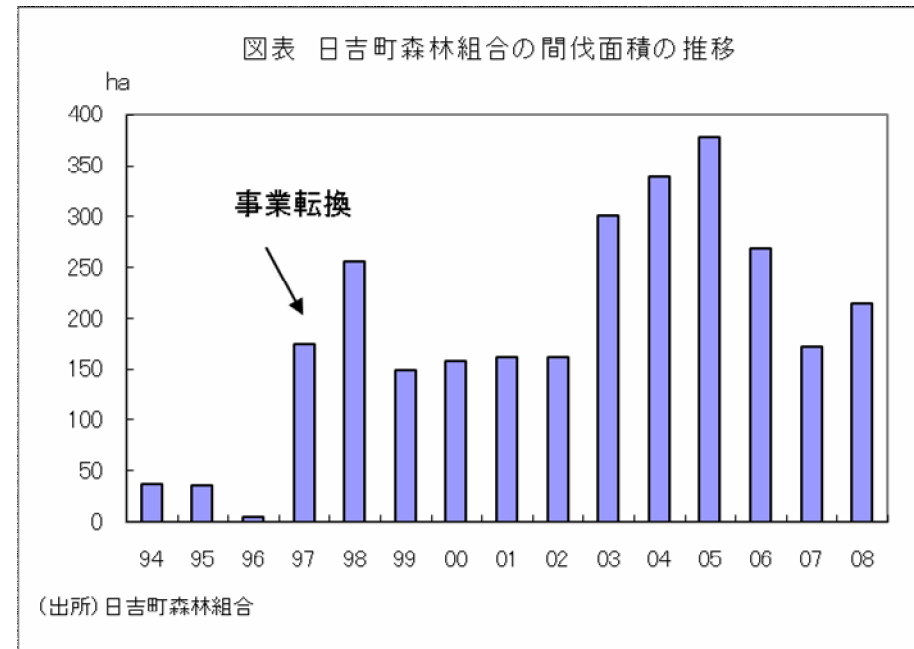
日本林業の成長戦略

日吉町森林組合

湯浅 勲

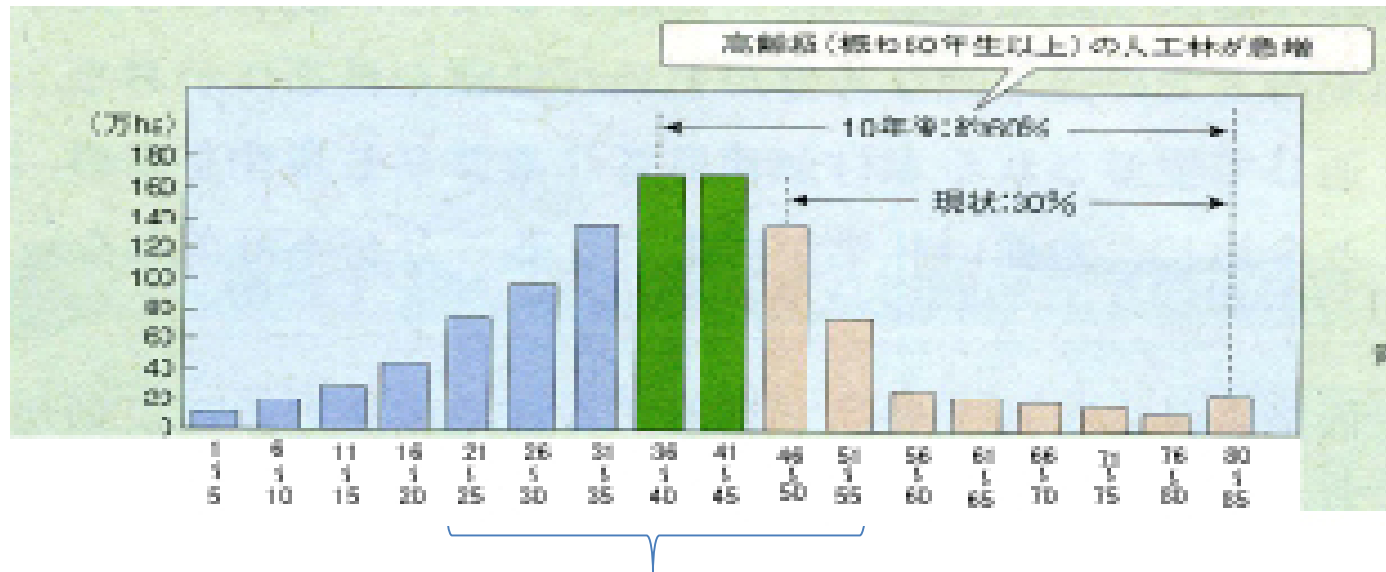
1. 日吉町森林組合の データ&事業の推移

- 町内面積：12,300ha
- 林野率：87%
- 森林面積：10,700ha
- 人工林立：41%
- 従業員数：22名
- 平均年齢：36歳



2. 日本の森林の現状

- ① 日本の森林は2,512万ha、国土の67%
- ② 人工林は1,036万ha、人工林率41%、蓄積44億m³
- ③ 国内の年間需要8,300百万m³ 成長量約1億m³+ α
- ④ 人工林の林齢別面積



このうち約80%が間伐を必要とする壮齢林
(必要間伐面積=100万ha/年・間伐材積8千万m³)

- ⑤ 間伐実績・・・H15→31万ha H16→27万ha H17→28万ha

⑥ 間伐されない人工林の行く末







⑦ 各地に増えてきた皆伐放置

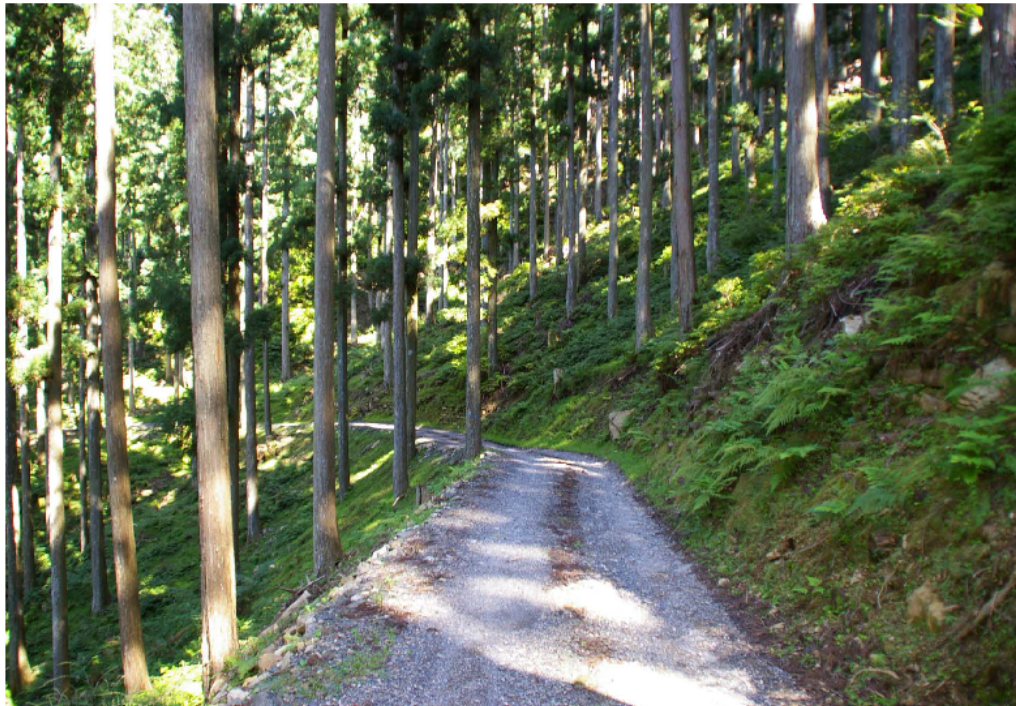


3. 林業・木材業の現状

- ① 日本の林内路網密度 = 16m/ha
(ドイツ = 112m/ha)
- ② 日本の労働生産性 = 2~3m³/人日
(ヨーロッパ全域 = 10~50m³/人日)
- ③ 国内需要8300万m³(H19年). うち自給1860万m³
自給率23% 2,256億円

④ 輸入丸太897万m ³	2,000億円	} 輸入林産物 1兆3,900億円
製材加工材765万m ³	3,500億円	
チップ用材1,433万トン	2,900億円	
合板 397万m ²	2,100億円	
その他	3,400億円	

技術者不在の路網(上)
と
まともな路網(下)




ドイツ黒い森付近の路網



建機ベースの日本機械(右)
と欧州の林業専用機械(左)



4. 林業再生のためにすべきこと

- ① 早急な路網の整備
 - ② 日本の機械は土木用 → 林業専用機械の開発
 - ③ 高齢化や不在村化により専業林家以外は森林管理不可能
 - ④ 森林管理や路網技術者不在 → 早急に養成が必要
 - ⑤ 技術者の受け皿となる森林組合の改革
 - ⑥ 上記に関する法律、補助制度の抜本改正
 - ⑦ 森林の荒廃実態と所有境界不明
- 
- ⑧ 全国の森林実態調査と所有境界の明確化

5. 林業再生の未来

① 自給率100%を達成すると……

- ・ 原木売上げ1兆円、製材合板加工2兆円
- ・ バイオマス、住宅等、川下産業の振興
- ・ 林業、製材加工業による雇用創出20万人 + α
- ・ 木材運送業、林業機械メーカー
- ・ 中山間地域の高齢化緩和に貢献
- ・ 外材運搬にかかる船からのCO₂削減

② 森林再生までの猶予期間は7年